

昭和38年7月11日 千種川大水害の記録

(写真及び資料提供：尾関豪一様[千草・千種分校第1期生])



千種町中心部の川の流れ (昭和37年頃 左荒神橋 右室橋方面)



荒神橋 (改修前、昭和37年頃)



荒神橋 (改修後、昭和39年頃)



三室山方向 (奥の白い建物が千種分校)



商店街北部の様子

(写真提供：平瀬文子様 [千草])



岩野辺川（正福寺前）



町内中心部（激流に道路が削られる）



室橋付近から城宮を望む



同じく城宮方向



激流に流される家屋



岩野辺川（奥に正福寺）



荒神橋付近(障子を運び避難)



左写真と同様の場所



商店街中心部の様子



商店街(避難用に張られた網が見える)



旧千種中学校



三室山方向(白い建物は千種分校)



三室山方向(奥に千種分校)



同じく三室山方向

今を遡ること50年前の昭和38年(1963年)7月11日、千種を未曾有の大水害が襲ったことを私たちはしっかりと記憶に留め、記録に残しておかなければならない。今年「千種災害対策プロジェクト」と銘打って「千種町立体ハザードマップ模型」の作製と「木造仮設住宅の建築」という事業に取り組んだ私たちは、研究と調査の過程で50年前の事実を知った。最初に教えてくださったのは、旧千種町元教育長・上山明様である。その証言を契機として、千種町内ご在住のお二人から写真や資料が寄せられた。他にも当時の資料や写真をお持ちの方がおられると思う。今後ともご協力をお願いしたい。

そして今、千種町文化協会会長・鳥居準様よりご母堂様からの言い伝えとして、その50年前、即ち大正2年(1913年)頃にも同規模の大水害が千種では起こったことを聞いているという証言が寄せられた。地震の如き「周期説」は水害にはなじまないと思うが、一つの教訓として肝に銘じ、常に「備えておく」ことを忘れてはならないであろう。